謹賀新年

Clover Newsletter

クローバーだより

2026年 1月号

←干支の馬（マキバオー）を【ヴィーナスの誕生】（ボッティチェッリ作）に見立ててデザイン。
毛糸と色紙を使って作られました。
（デイサービス利用者制作）

新年に

あれこれお付き合いいただいているうちに、
また一年がめぐりました。
四〇℃の夏があり、柿が異様にみのり、
コメが倍値で売られ、熊の影におびえました。
（「八〇年」であり、「一〇〇年」でもありました）
クローバー・サービスは、日々黙々と、
出会い、関わり合い、気にかけ合いました。
年代、性別、国籍が違っても、思想や宗教が違っても、
人は人と助け合えると思うのです。
〈対立〉をあおるのは、まっぴらです。
にんげんへの信頼を手放さず、
新年をはつらつと、機嫌よく始めたいです。
二〇二六年 正月

山下幾雄（理事長）

NPO法人クローバー・サービス
京都府船井郡京丹波町橋爪桧山 53
■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017
■e-mail: info@cloverservice.or.jp
■ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.cloverservice.or.jp

クローバー・デイサービスセンター
京都府船井郡京丹波町橋爪桧山 41-1
■TEL & FAX (0771)88-0138
■e-mail: day@cloverservice.or.jp

facebook QR

映画・本・歴史のこと

＜第 35 回＞ 柳原白蓮と人々

有田誠（ありたまこと） 京丹波町在住の映画愛好家

写真は 70 年代に廃線が相次いだ筑豊の国鉄（筆者撮影）

松本清張と筑豊

清張は小倉出身である。西小倉駅から南に延びる道路は、清張通りと名づけられている。小倉城の西側に当たる沿道には、三十年前、北九州市立清張記念館ができた。清張の書斎とそれにつづく書庫が、東京から移された。二十三万冊の蔵書に圧倒される。

北九州を舞台にした作品は二十作以上入できない欲まみれ、ドロある。

ここでは、筑豊が出てくる作品を、五作紹介する。長編の『けものみち』（一九六四）。東京が舞台だが、満洲、筑豊の石炭、政財界の黒幕という三題噺みたいな老人と、その周りの人間たちの話である。東宝で映画化もされている（一九六五）。池内淳子、池部良、小林桂樹、伊藤雄之助らが出る、東宝としてはエロい映画である。どの人物にも感情移ドロの映画。監督は須川栄三。大藪春彦の『野獣死すべし』（一九五九）を仲代達矢で撮った関西人である。

『真贋の森』（一九五九）はI市（飯塚）の炭鉱町に住む、贋作画家をスカウトして、ひと儲けを企む男たちの話し。『火の記憶』（一九五五）は、幼い頃、母とある男に連れられて見た火は、炭鉱のボタ山で自然発火する火だったと、夜汽車の車窓からの火を見て気がつく。一気に幼児の記憶が、筋道たてて明らかになる。

『遠くからの声』（一九五九）、連作『絢爛たる流離』の第一話「土俗玩具」には、飯塚市幸袋が登場する。柳原燁子（白蓮）が十年すごした石炭王伊藤伝右衛門の超大邸宅がある土地である。

柳原燁子（一八八五～一九六七）

公家出身の柳原前光伯爵と柳橋の芸者おりょうの間に燁子は生まれた。おりょうの父新見正興は、日米修好条約批准書交換使節の正使として渡米、幕府外国奉行だった。事故に備えて随伴したのが、勝海舟や福沢諭吉の乗った咸臨丸である。母は大久保彦左衛門の家系。

前光の妹愛子は明治天皇に仕え、大正天皇の生母である。つまり燁子は、大正天皇のいとこになる。

十六歳で分家の京都北小路家の養女となり、北小路資武と結婚する。一子功光をもうけるが、四年で離婚。柳原家に四年間幽閉される。二十三歳でカナダ系メソジスト派の東洋英和女学校に入る。寮生活を送る。ここで、『赤毛のアン』全十巻を翻訳した村岡花子と親友となる。花子は八歳年下だったが、親交は生涯つづいた。

一九一一年二十六歳で、二十五年上の筑豊の伊藤伝右衛門と結婚。筑豊の現飯塚市幸袋に移る。

住む世界も育ちも違う伝右衛門とは心も通わず、佐々木信綱の竹柏会で、歌に救いを求める。竹柏会には、村岡花子も入会させている。九条武子もいた。武子は、西本願寺門主大谷光尊（明如上人）の娘で、兄は西域探検をした光瑞である。

歌や小説、戯曲などを、竹下夢二の豪華な装丁で出版した燁子は、白蓮と名のった。

宮崎龍介（一八九二～一九七一）

一九二一年十月、孫文を支援した宮崎滔天の息子龍介と出奔。龍介は東大の社会主義グループ「新人会」で活動していた。吉野作造は

その顧問だった。

龍介の母槌子は、豪農前田案山子の三女。姉の卓子は夏目漱石『草枕』（一九〇六）の那美のモデルで、案山子も「志保田の隠居」として登場する。自由民権運動の闘士であった。

龍介は、吉野作造らの黎明会の機関誌『解放』の原稿依頼のため、別府の別邸に白蓮を訪ねた。これが、二人の出あいだった。

白蓮スキャンダル

姦通罪のあった時代である。宮内省に激震が走った。

燁子は大正天皇のいとこである。異腹の兄義光は伯爵で貴族院議員、その姉信子は、東宮侍従長入江為守の妻であった。

華族が不義密通の子を懐妊、華族を監督する宮内官僚たちは、いかに責任逃れをするかで汲々となる。内田良平の「黒龍会」が、宮内省をおどし、金をせしめる。兄義光は、貴族院議員の引責辞任を半年も拒みつづける。宮内次官の関屋貞三郎は、一介の右翼に「どうすればいいか」とお伺いをたてている。岡本喜八監督のテンポのよい演出でドタバタ喜劇になりそう。

白蓮（1885～1967）

龍介にも、「国賊」、「悪党」の手紙が山と届く。暴力団が家の前にたむろする。右翼が来たときは、腹に真綿をまいて対応した。

出奔翌日の大阪朝日新聞には、白蓮の伝右衛門への絶縁状が掲載された。その二日後からは、四日続けて大阪毎日新聞に伝右衛門の「反論」が載った。

十一月に入って、東京駅で原敬首相が暗殺されたが、白蓮事件はそんなニュースよりも、世の中を騒がせた。

宮崎滔天はこの事件のあと、五十一歳で死んでしまうが、龍介に「どうしようもなくなったら、お前と二人で心中してもいい。線香ぐらいは、仏前に立ててやる」と言った。

白蓮は、しばらく京都大徳寺近くの尼寺にいた。伝右衛門と燁子の仲人だった樺山常子（白洲正子の祖母）は、綾部大本教の出口王仁三郎に相談する。王仁三郎は、海軍士官時代から信者であった宇城信五郎に燁子を託す。東京商工会会頭中野武営の息子岩太の綾部和知川のほとりにある別荘松雲閣に燁子は移った。第一次大本弾圧事件は、一九二一年二月のことである。王仁三郎も弾圧後、松雲閣に移っていた。

白蓮事件後

龍介と燁子はその後、正式に結婚、二人の子供香織、蕗苳とともに東京で暮らす。学徒出陣の香織は、鹿児島県串木野で米軍の爆撃で、敗戦の四日前、戦死した。

一九五六年、龍介と燁子は、孫文生誕九十年の祝典に、国賓として中国に招待された。毛沢東、周恩来とともに壇上からメーデーに臨席した。現在に至るまで中国の新しい大使は赴任する度に、宮崎家を訪問する。

燁子と白洲正子

白洲正子の自伝（新潮文庫）によると、柳原家と正子の樺山家とは、姻戚関係にある。燁子を樺山家で預かったこともあるらしい。

正田美智子が皇室に入るとき、「平民」の女性を皇太子（現上皇）の妃にすることに憤慨して、燁子から正子に電話してきたとのこと。「共産主義」の龍介と結婚しても、附焼刃の思想よりも、「公家」の血が濃かったと正子は笑ってしまったと書いている。

そこひなき闇にかがやく
星のごとわれの命をわが
うちに見つ

（白蓮辞世の歌）

外出支援サービス（事業紹介）

一般の公共交通機関を利用することが困難な高齢者等に対して、利用者の居宅と医療機関等との間を送迎するサービスです。
福祉有償運送として、京丹波町から委託を受け行っています。

【利用対象者】
おおむね 65 歳以上であって、下肢が不自由な方又は行政が必要と認めた方を対象としています。

利用実績（2025 年度）

	利用回数	利用人数	移送距離
4 月	189	54 人	1760.8km
5 月	173	51 人	1406.6km
6 月	193	57 人	1662.1km
7 月	215	52 人	2062.2km
8 月	184	50 人	1508.2km
9 月	199	53 人	1960.4km
10 月	236	63 人	2591.0km
11 月	188	57 人	1792.1km

※ピーク時（2011年）は月平均321回／2699㎞ の利用があった。

▶サービスを利用するには？

■京丹波町に利用申請が必要になります。

① 役場の福祉支援課（もしくは役場支所窓口）で利用申請書を入手のうえ、届け出する。
② 役場担当職員による現状等の聞き取り。
③ 利用可否決定通知か届く。（1週間程度）

※決定通知が届けば、クローバーを含む、各指定業者へ送迎の予約をすることができます。

▶ご利用にあたって…

■ご利用は月 4 回以内を目安としてください。
■買い物などを目的とした利用は、月 1 回のみ（行先は京丹波町内限定）となっています。
■休日（土・日・祝）や、事業所の営業時間外の利用はできません。

多くの方が利用されるサービスです。 車や運転員の確保が必要なため、前日や当日のご依頼には対応できない場合があります。 なるべく早い段階でのご予約をお願いします。（途中立ち寄る場所がある場合も事前にお知らせください。）

編集後記

年末恒例【今年の漢字】は「熊」でした。全国から約18万票もの応募があり、2位の「米」とはわずか180票差だったそうです ▼日本各地でクマの出没が相次ぎ、人身被害や、死傷者数が過去最多となっており、京丹波町内でも出没情報を聞きます ▼出くわしたら、大きな声を上げず、背中を見せないようにゆっくり後ずさりする… そのようなことをよく聞きますが、そんな冷静に対応できるかな？びっくりして、声は出ないかもしれませんが、きっと慌てて逃げ出すのではないかと思います。もしくは腰を抜かして身動き取れないかのどちらかでしょうね… ▼散歩を日課に近所を歩いていますが、シカや、イノシシ、タヌキなどはたまに見かけます。シカとイノシシは逃げていくことがほとんどですが、タヌキだけは近い距離でも、『あぁお前かご苦労さん』とでも言いそうな感じでこちらの顔を見ながら、すれ違います（笑） ▼ただ写真を撮ろうと近づいたら地面にひれ伏し動かなくなりました。これが【タヌキ寝入り】の語源か！とその時は納得したのですが、身を守る術として、やはり有効なんでしょうかね？タヌキさんに聞いてみたいです。＜編集子＞

＜賛助会員＞

（有）あさひ堂
（株）一谷住宅
イン・ザ・ルーム亀岡店
上段税理士事務所
（株）高木設備
たにやま鍼灸整骨院
田端輪業
（有）土佐寿司
（有）西村テレビ
みづほ電工
理容ちどり

（五十音順）